

生誕150年記念

モンドリアン展

純粋な絵画をもとめて

Mondrian

Commemorating the 150th Year since his Birth

東京会場

会期終了後、愛知会場に巡回予定。

会期	2021年3月23日（火）— 6月6日（日）
会場	SOMPO美術館 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 https://www.sompo-museum.org/
休館日	月曜日 ※ただし5月3日（月・祝）は開館
開館時間	午前10時～午後6時
主催	SOMPO美術館、日本経済新聞社
協賛	損保ジャパン、野崎印刷紙業
後援	オランダ王国大使館
協力	KLMオランダ航空
企画協力	NTVヨーロッパ
お問い合わせ	050-5541-8600（ハローダイヤル）

日時指定入場制			事前に美術館ホームページより日時指定のオンラインチケットをご購入ください。
3月16日（火）より販売開始予定			入場無料の方も日時指定のオンラインチケット（無料）を取得のうえ、ご来館ください。
	一般	大学生	※入場時間を30分ごとに区切り、会場内へ入場する人数を制限いたします。指定した時間枠内であれば、いつでもご入場いただけます。※時間入替制ではありませんが、1時間以内での鑑賞にご協力をお願いします。※高校生以下無料、身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方はご本人とその介助者1名は無料、被爆者健康手帳をお持ちの方はご本人のみ無料です（いずれも要予約、入場時要証明）。※定員に空きがある場合に限り、美術館受付で当日窓口チケットを販売します。
オンラインチケット	1,500円	1,100円	
当日窓口チケット	1,700円	1,300円	
オンラインチケット取得方法			美術館ホームページの「チケットの取得はこちら」から希望の日時をご指定のうえ、ご購入ください。入場無料の方のチケットの取得もこちらからお願いします。

展覧会概要

本展はオランダのデン・ハーグ美術館所蔵のモンドリアン作品50点と国内外美術館から借用するモンドリアン作品と関連作家作品約20点を展示する、日本では23年ぶりの待望の「モンドリアン展」です。

ピート・モンドリアン作品を多数収蔵するデン・ハーグ美術館からの借用作品は、初期のハーグ派様式の風景画から晩年の水平垂直線と原色平面の「コンポジション」シリーズまで多岐にわたります。モンドリアンは、1908年にトーロップに出会い象徴主義や神智学に傾倒しつつも、オランダの風景から風車、灯台、砂丘、聖堂などを描き、実験的作品を展開します。1911-14年に滞在したパリでキュビズムにふれると、「新造形主義」理論を立ち上げ、第一次世界大戦を挟んで、静物や樹木など身近な主題を抽象化した独自の作風を築きます。第一次世界大戦後は「新造形主義」に従った厳格な「コンポジション」シリーズへと至り、晩年にニューヨークへ移ってもなお旺盛に制作を続けました。

また、直線と限られた色面によるモンドリアンの絵画構成は、ドゥースブルフらと1917年に結成した「デ・ステイル」をはじめ、デザインやファッションの領域においても盛んに取り入れられ、今なお私たちを刺激してやみません。「デ・ステイル」関連のプロダクトなどをあわせて紹介し、2022年に生誕150年を迎えるモンドリアンの芸術の広がりを再検証します。

展覧会のみどころ

23年ぶりの待望のモンドリアン展

2022年に生誕150周年を迎えるモンドリアン。日本では実に23年ぶりの個展になります。知っているようで知らないモンドリアンの作品に出会えるまたとない機会です。

初期の風景画から晩年の抽象画に至る過程をたどる

あまり知られていない自然主義的な初期の風景画も、よく見ると晩年の作品へとつながる兆しをはらんでいます。オランダからパリ、そしてニューヨークへと移り住みながら画風を変化させていったモンドリアンの軌跡を辿ります。

同時代の作家との交流

1917年にドゥースブルフラと結成した「デ・ステイル」をはじめ、モンドリアンは同時代の作家と盛んに交流し、意見を交わしています。本展では「デ・ステイル」の作家など、関連する作品をあわせて展示します。

ピート・モンドリアン略歴

1872年	オランダ中部のアメルスフォルトに生まれる
1892－95年	アムステルダムの国立アカデミーに学ぶ
1895－97年	同校の夜間学校で学び、ハーグ派風の風景画を描く
1904－05年	オランダ・ブラバント地方のウーデンに滞在
1908年	ゼーラント地方のドンブルグ滞在 1910年にかけてドンブルグの教会シリーズを制作 象徴主義の画家、ヤン・トーロップに出会う
1909年	神智学協会に入会
1911年	アムステルダムで開催されたキュビズム展に影響を受け、パリへ
1914年	父の病気のためオランダに帰省 第一次世界大戦勃発によりそのままオランダに残る
1915年	テオ・ファン・ドゥースブルフに出会う
1916年	バート・ファン・デル・レックに出会う この頃より線と原色による 抽象的コンポジションの制作をはじめ
1917年	ドゥースブルフラとともに『デ・ステイル』誌を創刊
1918年	スペイン風邪に罹患するが回復する
1919年	再びパリへ
1925年	ドゥースブルフが助力し、 バウハウスから『新造形主義』を出版 モンドリアンはエレメンタリズムの問題を巡り ドゥースブルフと意見対立 「デ・ステイル」の活動から離れる
1931年	ドゥースブルフとの交流が再開
1938年	第二次世界大戦の戦火を逃れロンドンへ
1940年	ロンドン空襲 ニューヨークへ移り、一連の《ブギ＝ウギ》作品を制作
1944年	ニューヨークで死去



《自画像》
1918年
油彩、カンヴァス
88×71cm
デン・ハーグ美術館

問い合わせ先

東京会場
「モンドリアン展」広報事務局
(株式会社ウインダム内)
担当: 橋川・白井
Tel: 03-6661-9447
Fax: 03-3664-3833
E-mail : sompo-m-pr@windam.co.jp
住所: 〒103-0014
東京中央区日本橋蛸殻町1-28-9
ヤマナシビル4階



《ヘイン河畔、水辺の木々》
1905年頃
油彩、カンヴァス、パネル
25×32cm
デン・ハーグ美術館



《ダイフェンドレヒトの農家》
1905年頃
油彩、カンヴァス
46×59cm
デン・ハーグ美術館



《陽の当たる家》
1909年
油彩、カンヴァス
52.5×58cm
デン・ハーグ美術館



1
《砂丘Ⅲ》
1909年
油彩、厚紙
29.5×39cm
デン・ハーグ美術館

作品キャプションの下に
左記のマークがついた作品は広報用画像です。





《オランダカイウ(カラー):青い花》
1908ー09年
油彩、カンヴァス
46×32cm
デン・ハーグ美術館

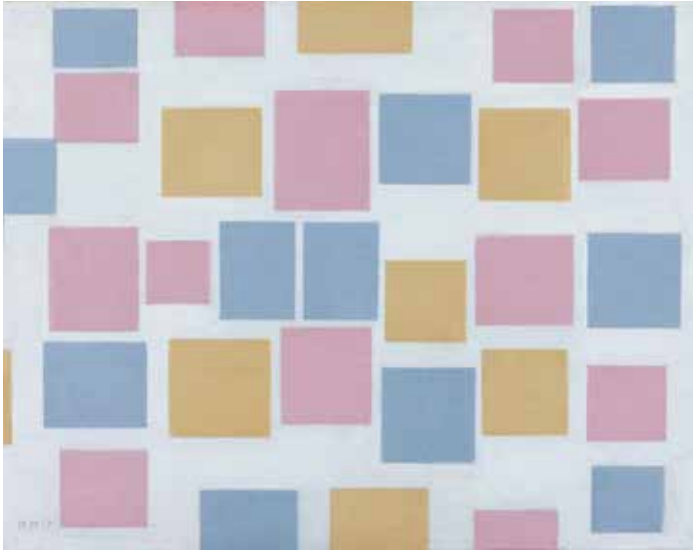


2
《ドンブルグの教会塔》
1911年
油彩、カンヴァス
114×75cm
デン・ハーグ美術館



3
《色面の楕円コンポジション2》
1914年
油彩、カンヴァス
113×84.5cm
デン・ハーグ美術館

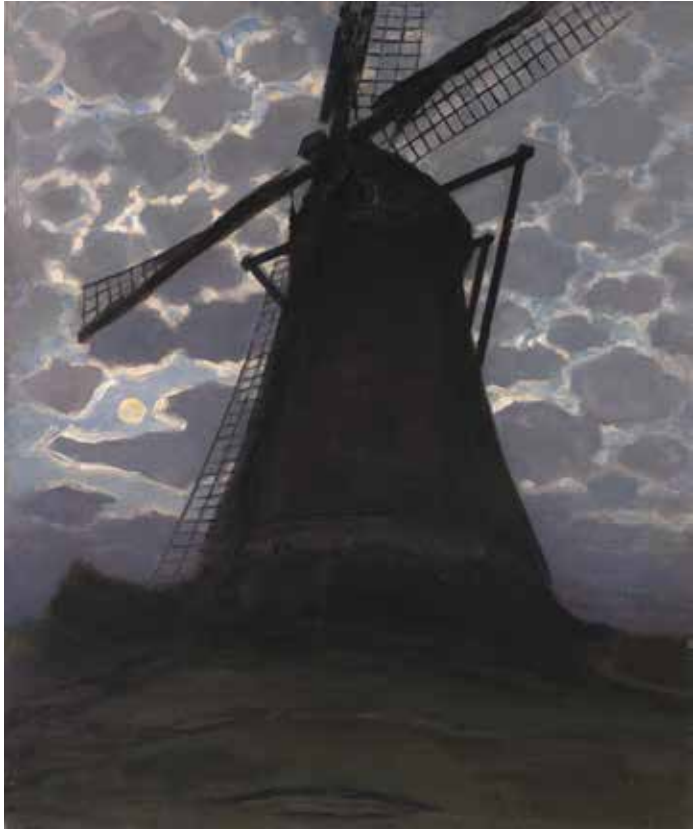




4
《色面のコンポジションNo.3》
1917年
油彩、カンヴァス
48×61cm
デン・ハーグ美術館



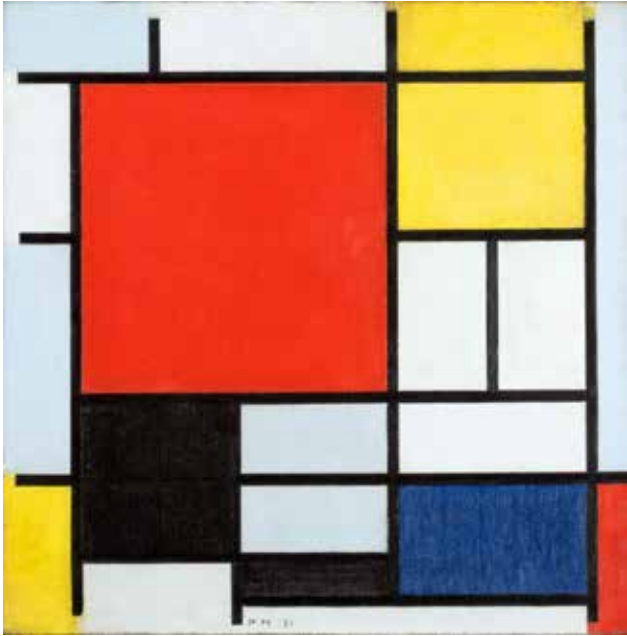
《二本のオランダカイウ》
1918年
油彩、カンヴァス
80×50cm
デン・ハーグ美術館



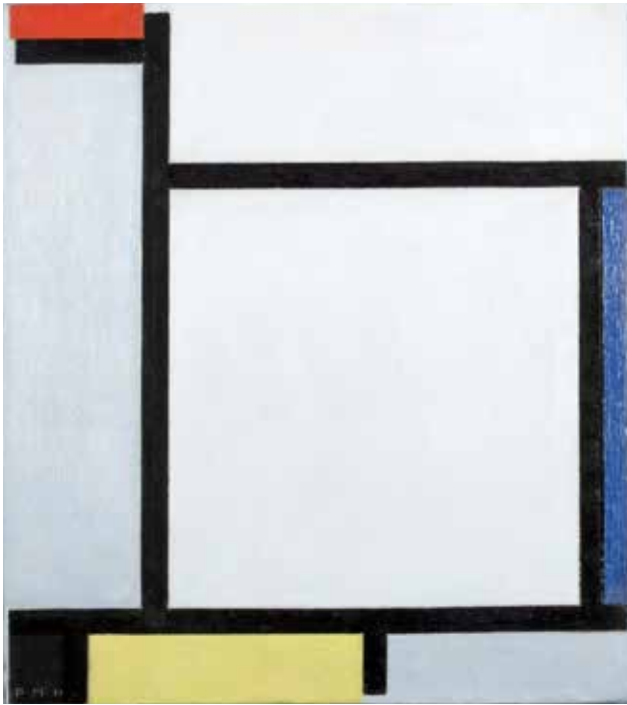
《夕暮れの風車》
1917年
油彩、カンヴァス
103×86cm
デン・ハーグ美術館

5
《格子のコンポジション8ー 暗色のチェッカー盤コンポジション》
1919年
油彩、カンヴァス
84×102cm
デン・ハーグ美術館





6
《大きな赤の色面、黄、黒、灰、青色のコンポジション》
1921年
油彩、カンヴァス
59.5×59.5cm
デン・ハーグ美術館



7
《赤、青、黒、黄、灰色のコンポジション》
1921年
油彩、カンヴァス
39.5×35cm
デン・ハーグ美術館

デン・ハーグ美術館所蔵作品のフォトレジットは、いずれも下記のとおり
Kunstmuseum Den Haag

8
《コンポジションNo.1》
1929年
油彩、カンヴァス
40.5×32.5cm
京都国立近代美術館



9
《線と色のコンポジションⅢ》
1937年
油彩、カンヴァス
80×77cm
デン・ハーグ美術館

